

## コラム ジャカルタで開催されたセミナーで災害管理に関する JICA 講師を務めました

平成 25 年 9 月 16 日～20 日の期間で、JICA 主催による ASEAN 諸国向け研修事業として、平成 25 年度 ASEAN 災害管理衛星情報活用能力向上支援プロジェクトの「災害管理における衛星情報の迅速な入手と活用のための能力開発プログラム・第 1 部『洪水解析のための衛星データの活用：第 2 週 iRIC トレーニングコース』」という研修がインドネシア・ジャカルタ市において開催されました。この研修は JICA による第 3 国研修の 1 つで、ASEAN の 9 カ国から派遣された危機管理担当部署の研修生 18 名を対象に、災害に備える上での実際的な技術を習得して頂くことを目的として開催されています。米国地質調査所、北海道大学、京都大学、寒地土木研究所寒地河川チームから派遣された講師らで河川の流れ、河床変動解析ソフトウェア iRIC に関する講義を行いました（写真-1）。

研修内容としては、防災や危機管理に携わる技術者に、河川周辺の危機管理能力の向上を目的に、衛星情報の活用方法、iRIC ソフトウェアによる河川水理解析の演習を行いました。寒地土木研究所では、無償の GIS ソフトウェアの活用、陸地での 2 次元津波氾濫計算（図-1）、1 次元モデルによる河道内の洪水・津波遡上計算（図-2）を担当しました。

海外では高価な河川解析ソフトが多く存在し、実務にも一部で利用されていますが、入手が困難であるためハードルが高くなってしまっているのが現状です。今回の研修では無償公開のソフトウェア（iRIC や QGIS）及び無償公開の地形データ等を活用することを基本としているため、多くの受講生からすぐに実務に導入可能であるとの声が聞かれました。今後、本演習の成果が ASEAN 諸国に普及し、具体的な防災危機管理体制の構築や河川計画に反映していただけることを期待しています。



写真-1 セミナー会場の様子

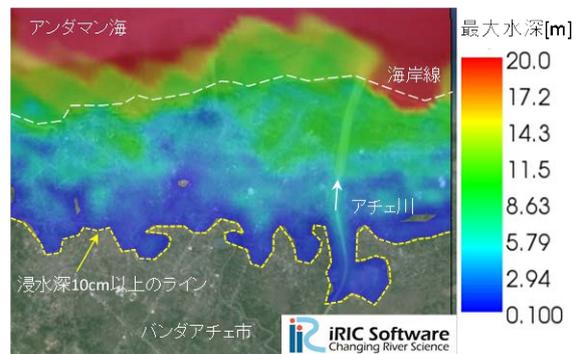


図-1 アチェ市における 2 次元モデルを用いた津波氾濫解析事例

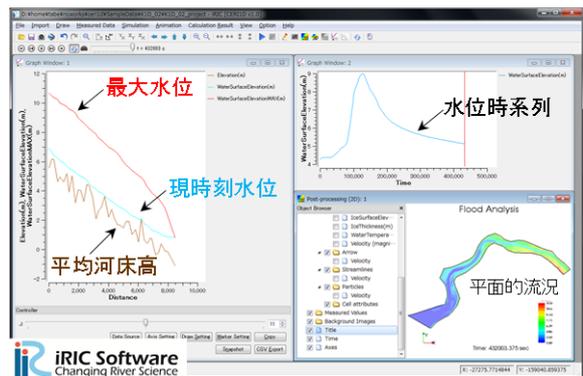


図-2 iRIC ソフトウェアでの 1 次元計算結果の可視化